

おやこ通信

第21号

お母さんの中には「自然に感染して免疫を獲得したほうが良い」と考える方もみえるようですが、感染して重症化するよりも、予防できる病気（ワクチンのあるもの）はあらかじめワクチン接種をして予防したいですね。ワクチン接種について「どのくらい期間をあければ次のワクチンの接種ができるの?」といった質問がよく聞かれます。今回はワクチンを一覧で紹介します。

ワクチンは大きく分けて生ワクチンと不活化ワクチンの2種類に分けられます。

生ワクチン（次の接種まで4週間あける）

生きた細菌やウイルスの毒性を弱めたもので、これを接種することによってその病気にかかった場合と同じように免疫ができます。接種後から体内で細菌やウイルスの増殖が始まることから、発熱や発疹の軽い症状がでることがあります。十分な免疫ができるのに約1ヶ月が必要です。

不活化ワクチン（次の接種まで1週間あける）

細菌やウイルスを殺し、免疫をつくるのに必要な成分を取り出して毒性をなくしたものです。体内で細菌やウイルスは増殖しないため、数回接種することによって免疫ができます。

	生ワクチン	標準接種回数
定期 (公費)	BCG（結核）	1回
	ポリオ（小児マヒ） MR（麻疹・風疹）	2回
	新城市は市から通知があります	
任意 (自費)	おたふくかぜ みずぼうそう	1回
	集団生活が始まる前には接種をすませましょう	
		1回

	不活化ワクチン	標準接種回数
定期 (公費)	3種混合（百日咳・破傷風・ジフテリア）	4回
	日本脳炎	4回
	新城市は市から通知があります	
任意 (自費)	小児肺炎球菌（細菌性髄膜炎）：生後2か月から接種可能です	*1～4回
任意 (公費)	ヒブ（細菌性髄膜炎）：肺炎球菌との同時接種も可能です	*1～4回
	サーバリックス（子宮頸がん）：10歳から接種可能です	3回
	公費接種対象者には通知がきます	
任意 (自費)	インフルエンザ：11月～12月頃の接種が一般的です	1～2回
	B型肝炎	3回

*印は年齢に応じて接種回数が変わるワクチンです。